



T.S.を覗き込む男の子

国土地理院東北地方測量部ら「測量の日」東北地区事業推進団体協議会のミニフェスタ実行委員会主催「地図と測量のミニフェスタ」が6日、仙台市青葉区のHOKUSU仙台市科学館で開かれた。家族連れなど590人來場。東北地方空中散歩マップやトータルステーション(T.S.)を使った測量ゲームなど楽しい体験を通し、測量と地図に対する関心を深めてもらった。

3日の「測量の日」を記念し

地理院・宮測協ら実行委員会

たイベントで、今回で38回目。実行委員会メンバーは地理院、日本測量協会東北支部、県測量設計業協会、北杜学園仙台工科専門学校、仙台市科館が共催し、テクノシステムが協力した。

大きく引き伸ばした東北地方の陰影地形図の上を3Dメガネをかけて散歩する「東北地方空中散歩マップ」や、T.S.を使った測量ゲーム、CAD体験、GPSクイズ、UAV操縦、地図記号教室など多彩な体験コーナーで測量と地図をPR。T.S.・CAD・GPSは、3つすべてを回ると記念品がもらえることもあって、多くの子どもたちが保護者の手を引いて館内を巡っていた。

宮測協が運営した「T.S.シュートティング」には、前回は大幅

測量体験などで関心喚起

に上回る400人が参加した。T.S.を操作して館内に隠された人気キャラクターのシルエットを探し出し、名前を回答するゲームで、手ほぎを受けながら子どもも大人も普段触ることができないT.S.に興味深そうに操作していた。

宮測協広報委員会の堀内拓仁委員長は「職場体験やインターンで中学生、高校生に測量の仕事に触れてもらう機会はあるが、小さな子どもたちにPRできる機会は少ない。こうしたイベントで測量に興味を持ってもらえればうれしい」と話した。

T.S.シュートティングを体験した女性2人組は「道路で機械(T.S.)を見かけて何をしているのか気になっていた。ゲームをしながら説明を受けてすっきりした」と笑顔を見せた。スタンプラリーを完走した小学1年生の男の子は「T.S.のゲームでは2つ答えられた。CADの操作も楽しかった」と記念品を嬉しそうに抱えていた。

ミニフェスタ実行委員長で地理院東北地方測量部の星野秀和部長は「一人でも多くの人に測量や地図について関心を深めてほしい。測量分野の将来の人材確保という観点からも、ミニフェスタは子どもたちに興味を持ってもらえる良い機会。このようなイベントを開催しているのは宮城県だけなので、他の5県にも広げていきたい」と意欲を示した。

来場 590人にミニフェスタ